

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	こがしさいじょうかそうとうかいちくこうじ
1. 事業(施策)の名称	古河市斎場火葬棟改築工事
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和3年9月 ～ 令和6年5月
3. 事業費(工事費)	約 1,261 百万円
4. キーワード	火葬棟改築、再利用可能な仮設火葬炉、建替えローリング計画
5. 事業概要	
既存火葬設備の老朽化及び周辺環境の改善を目的に、既存火葬棟を解体し、新たに鉄筋コンクリート造2階建てで改築工事を行ったもの。 【事業個所】古河市斎場 【事業規模】延べ面積 1,009 m² 【改築内容】既存火葬棟解体、仮設火葬棟設置解体、火葬棟改築(火葬棟、待合室等)、式場棟改修(式場等)	

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)国内初の再利用可能な仮設火葬炉の活用 (d)建替えローリング計画による改修の実施 (d)火葬業務の指定管理者との連携による施工時の環境保全対策	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)改築工事期間中の火葬事業の継続 (a)ダイオキシン類の排出削減 (b)本設火葬炉の仮設時利用、式場棟や仮設火葬炉棟の基礎の再利用によるコストの縮減	() () () ()

7. 特にアピールしたい点
本事業では、老朽化した既存火葬設備を改修したものである。 国内初の再利用可能な仮設火葬炉を活用するとともに、建替えローリング計画や指定管理者との連携による施工時の環境保全対策を行うことなどにより、狭小な敷地内であったが、火葬事業を止めることなく、改築工事を実施した。 また、仮設火葬炉を本設に転用することなどによりコスト縮減を図った。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



着工前全景



竣工後全景

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

【事業内容】

本事業では、老朽化した既存火葬設備が「火葬場から排出されるダイオキシン類削減対策指針」以前のものであるため、改修により周辺環境への改善と老朽化の更新を行った。

【手段】

① ハード面

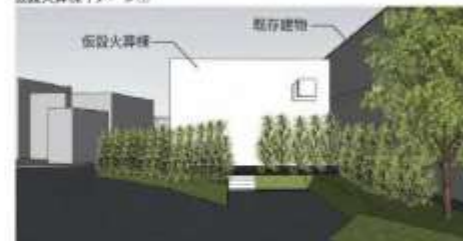
(a) 国内初の再利用可能な仮設火葬炉の活用

火葬業務を継続して実施するため、狭小な敷地内で対応でき、再利用可能な仮設火葬炉による仮設火葬棟の整備を行い、本設に転用する計画とした。

火葬炉配置イメージ



仮設火葬棟イメージ①



北側より

仮設火葬棟イメージ②



東側より

□火葬炉断面フロー

現火葬炉設備



計画火葬炉設備



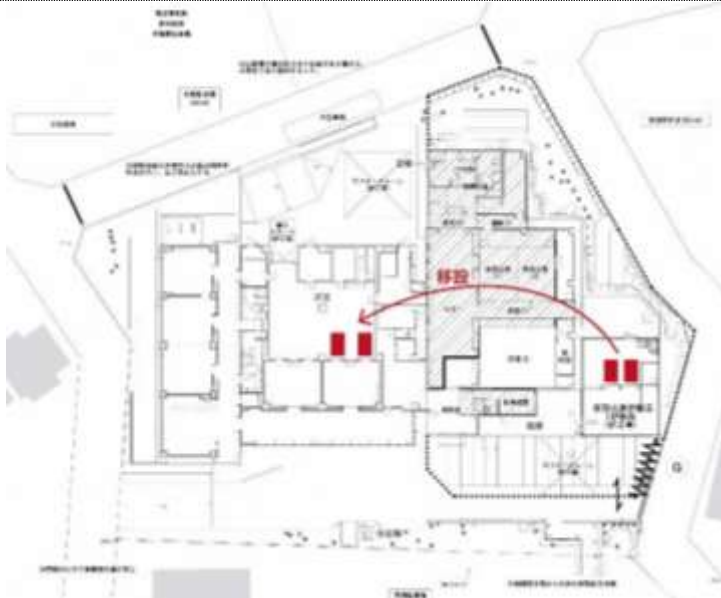
仮設火葬炉設備



建物の騒音・振動対策及び周辺への配慮

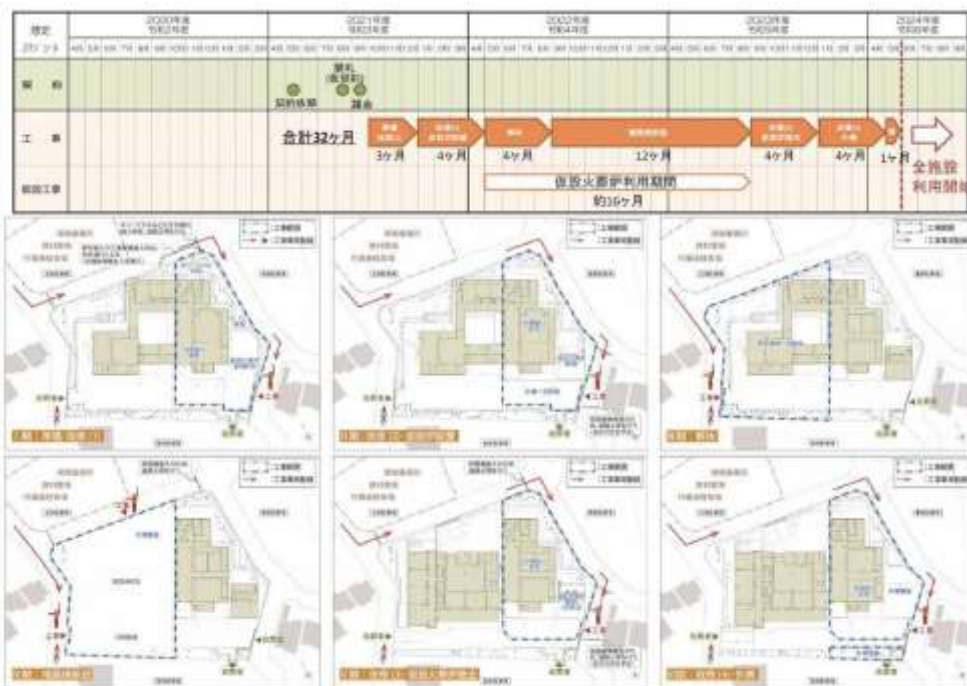
- ・火葬炉専用の低騒音型のバーナを採用し、騒音を低減。
- ・低騒音タイプのモーターを採用し、架台に防振ゴムを設けることで騒音と振動を低減。
- ・火葬炉を密閉して炉の外に燃焼音が漏れ出ない構成とし、騒音を低減。
- ・排風機についてはインバータの調整により低周波音の外部漏洩を防止。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法等)〕



(d) 建替えローリング計画による改修の実施

火葬業務を行いながらの改築工事を進めるため、既存建物を大きく2箇所に分割し、さらに工事箇所を工区分けすることで葬儀の運営や火葬業務の停止にならないよう、部屋ごとに分割してローリング計画を作成した。なお、既設式場棟は耐用年数と構造耐力上問題がなかったため、解体せず改修することとした。さらに本設の火葬炉を仮設でも使用できるように火葬炉の移設方法や既存建屋の解体・改築工事への影響を綿密に計画した。



(j) 火葬業務の指定管理者との連携による環境保全対策

本市の火葬業務は、告別式と火葬と葬儀のすべてを担う業務を行っており友引のみが休業日となるため、工事スケジュールの管理を行い火葬業務への影響を最小限に抑えた。

具体的には、葬儀や通夜の運営スケジュールについて、発注者、指定管理者、施工者、監理者間で情報共有し、工事スケジュールに反映した。また、施工者の作成した工事工程を基に、工事の定例会議にて、騒音・振動が発生する工事をチェックし、関係者間で事前に工事内容を確認した。さらに前日には、再度翌日の稼働予定を情報共有し、施工者による騒音・振動の作業時間を調整して対応した。また少しでも懸念される場合は、葬儀業者への連絡も行い、常にどのような工事が行われるか、徹底的に周知した。利用者エリアにも工事を行っている旨の張り紙を行い、またホームページに工事状況を掲載するなど、会葬者への周知も行った。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、PIの方法 等)〕

【秀でた成果】①ハード面

(a) 改築工事期間中の火葬事業の継続

上記の対策により、改築工事(令和3年9月～令和6年5月)の間に約 2,600 件の火葬業務を休止することなく継続して実施することができた。

(a) 火葬棟改築によるダイオキシン類の排出削減

改修したことによりダイオキシン類の排出が削減され、周辺環境への影響が改善された。

(b) 本設火葬炉の仮設時利用、式場棟や仮設火葬炉棟の基礎の再利用によるコストの縮減

再利用可能な仮設火葬炉棟を設置するだけでなく、本設の火葬炉を仮設で使用することで約 70 百万円の工事費の削減を図った。

式場棟については、平成 10 年に建設されており、耐用年数と構造耐力上問題がないため、解体せず改修し再利用することで、約 163 百万円の工事費を削減した。

仮設火葬炉棟の基礎については、災害時の一時避難スペースを想定している広場のタイル張りの下地として再利用し、約 1 百万円の工事費を削減した。

・仮設火葬炉棟



・竣工後写真 告別収骨室(収骨時)



・仮設火葬炉棟基礎



・広場



・竣工後写真 外観



・竣工後写真 鳥瞰

